

食品寄附等に関するDX分科会 第2回

実証事業計画

2024年 8 月28日

1. 目的

① 実証（既存システム活用型）における目的

将来的にクロスストック（多品種の商品を荷受けして直ちに仕分けして発送）等で大規模に寄附を受け付けられるようになった際、食品寄附者からの受入問合せに対して即時判断が可能になった状態を想定して、食品寄附者とフードバンク間のシステムを連携させるAPI仕様の有効性を確認することを目的とします。

- 登録する際のデータ項目において、入力の手間などの問題や過不足がないかを確認
- フードバンクにおいては、寄附者からの受入問合せへの対応にかかる作業負担が削減されるか確認

② 実証（新規システム構築型）における目的

フードバンクに在庫管理機能を持つシステムを新たに導入し、在庫食品の種類・数や賞味期限等の管理をシステム上で行うことで、業務が効率化するか確認します。また、在庫管理機能と同時に需給調整機能も備えることで、効率的にマッチングできるか確認することを目的とします。

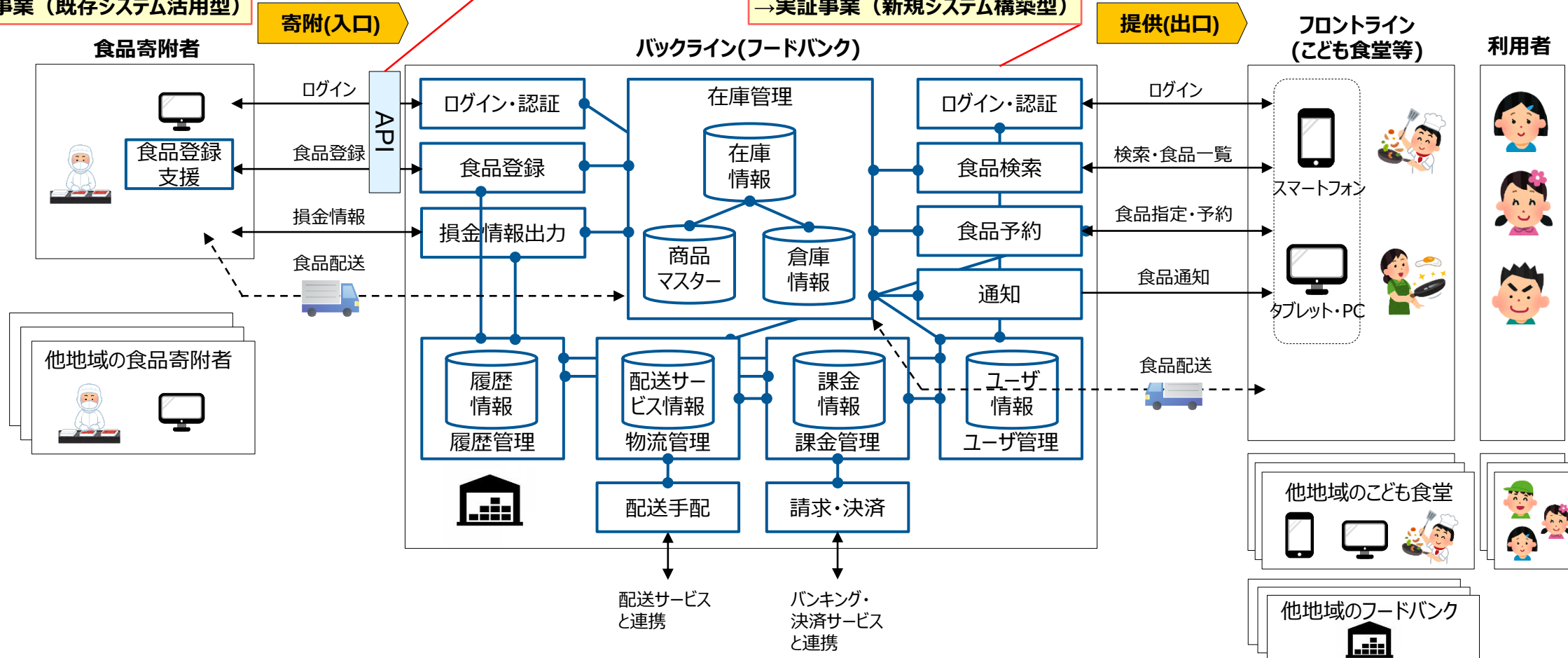
- 食品寄附者においては食品を登録する手間が減り、より積極的に寄附を行いたくなるか確認
- こども食堂等の食品を受領する主体においては、必要な食品を検索・予約しやすくなるか、食品受領業務の作業負担が減るか確認

2. 実証事業の範囲

既存システム活用型では食品寄附者とフードバンク間のシステムをAPIで連携、新規システム構築型ではフードバンクに在庫管理・需給調整機能を持つシステムを導入し、フードバンク・食品寄附者・こども食堂に当該システムを利用いただきます。

食品寄附者とフードバンク間のシステムをAPIで連携させることで、寄附食品の受入問合せ・受入可否判断を迅速化
→実証事業（既存システム活用型）

フードバンクに在庫管理・需給調整機能を持つシステムを導入し、寄附者・フードバンク・こども食堂の業務負担が軽減できるか確認
→実証事業（新規システム構築型）



3. 実証結果項目

本実証における実証結果をユーザごとに整理し、実証期間中に食品授受を行った寄附食品数、作業回数、作業時間など定量的な項目を確認します。

既存システム活用型

基本事項

- 寄附者、フードバンクの参加団体数
- 実証期間

寄附者

- 寄附食品の数、内容、種類
- 寄附食品登録回数
- 件数あたりの食品登録時間 等

バックライン

- 寄附食品受入可否回答回数 等

新規システム構築型

基本事項

- 寄附者、フードバンク、こども食堂の参加団体数
- 実証期間

寄附者

- 寄附食品の数、内容、種類
- 寄附食品登録回数
- 件数あたりの食品登録時間 等

バックライン

- フロントラインへの食品提供数 等

フロントライン

- 食品検索、予約回数
- 件数あたりの食品検索・予約時間 等

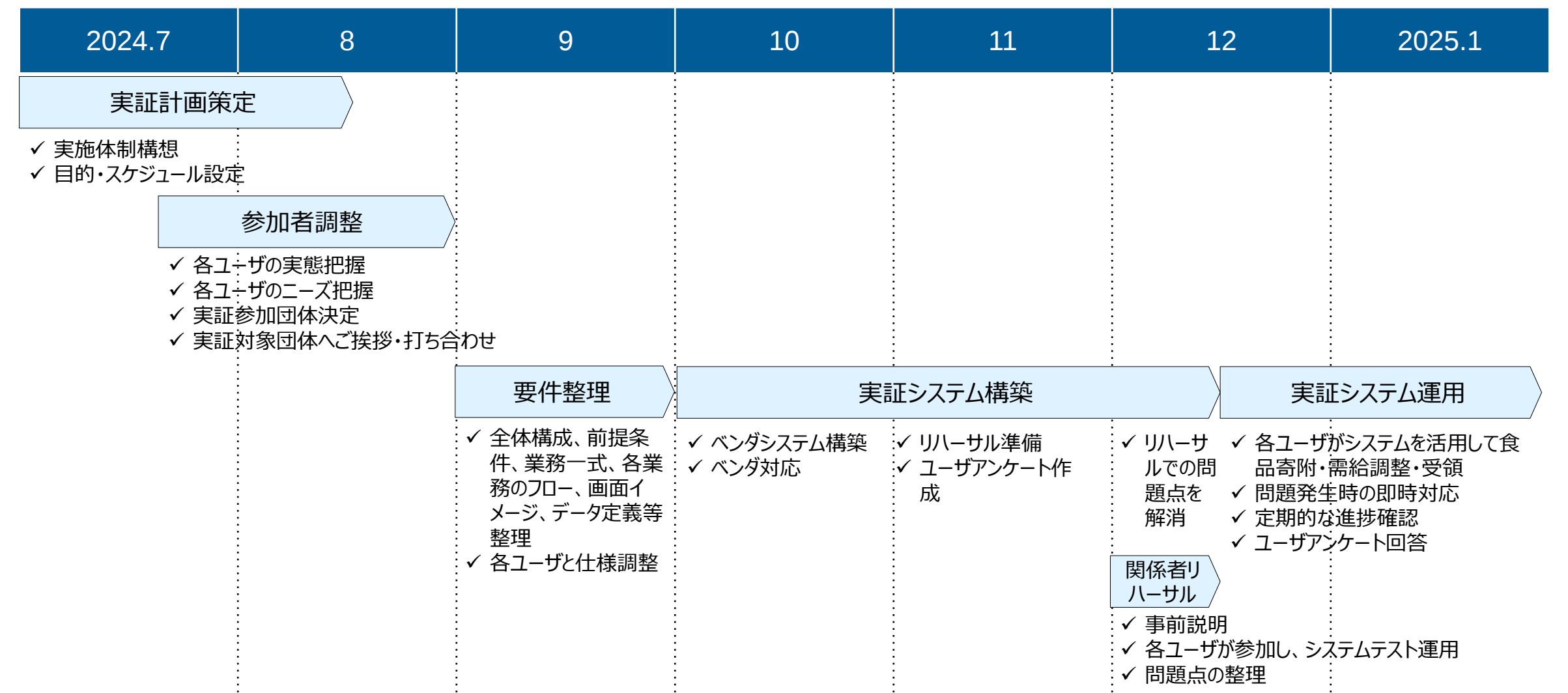
4. 検証内容

本実証によって各ユーザの業務負担軽減度合、システムの利用しやすさ、更なる活用のための改善点等を確認します。検証方法はユーザへのアンケートを想定しています。

対象	実施主体	業務	検証内容
新規システム 構築型	寄附者	食品登録	- 必要な情報を過不足なく登録できるか（食品名・カテゴリ・賞味期限・単位・訳アリ商品等） - 登録における処理時間は快適か - 食品情報の登録・編集・削除等の操作はしやすいか - システムを活用することで、寄附に対するモチベーションは上がったか - 従前と比較して業務負担は軽減されたか - 実証終了後も活用したいと感じるか、どの点を改善すればさらに使いやすくなるか
	フロントライン	食品検索・予約	- 正確な食品検索ができるか、ユーザの期待どおりの食品検索ができるか、情報として十分か - 検索や予約における処理時間は快適か - 従前と比較して業務負担は軽減されたか - 実証終了後も活用したいと感じるか、どの点を改善すればさらに使いやすくなるか
	バックライン	在庫・履歴管理	- 在庫情報により実際の在庫を正確に把握できたか - 従前と比較して、寄附された食品を迅速にフロントラインへ提供できたか - 従前と比較して業務負担は軽減されたか - 実証終了後も活用したいと感じるか、どの点を改善すればさらに使いやすくなるか
既存システム 活用型	寄附者		- 必要な情報を過不足なく登録できるか（食品名・カテゴリ・賞味期限・単位・訳アリ商品等） - 登録にかかる時間が短縮されたか - その他、寄附に対するモチベーションは上がったか - 実証終了後も活用したいと感じるか、どの点を改善すればさらに使いやすくなるか
	フードバンク		- 寄附者からの受入問い合わせへの対応にかかる作業負担が従前と比較して軽減されたか - 実証終了後も活用したいと感じるか、どの点を改善すればさらに使いやすくなるか

5. スケジュール

実証システムの運用終了は来年 1 月末頃を目指すため、その開始は12月中旬頃とします。そのために、10月から実証システム構築を開始します。



NTT DATA

株式会社NTTデータ経営研究所

Lighting the way
to a brighter society